

第56回臨床心臓電気生理研究会

ランチョンセミナー

# Luncheon Seminar

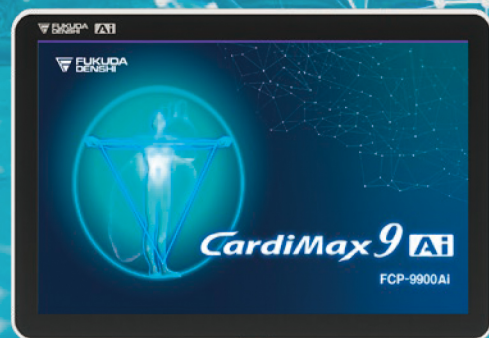
日時 2026年 5月30日(土) 11:50~12:30

会場 TODA HALL&CONFERENCE  
TOKYO ホールA

〒104-0031 東京都中央区京橋1-7-1  
TODA BUILDING 4階

## 脳梗塞急性期における AI心電計のポテンシャル

～長時間ホルターで追い求めた隠れAFの検証～



座長 草野 研吾 先生

国立循環器病研究センター 副院長  
心臓血管内科部門長 不整脈科 部長

演者 河村 光晴 先生

牧田総合病院  
副院長・診療部部長・循環器内科部長



共催：第56回臨床心臓電気生理研究会/フクダ電子株式会社

## Luncheon Seminar

### 脳梗塞急性期におけるAI心電計のポテンシャル

～長時間ホルターで追い求めた隠れAFの検証～

河村 光晴

牧田総合病院 副院長・診療部部長・循環器内科部長

塞栓源不明脳塞栓症 (ESUS) は、明らかな原因を特定できないが塞栓機序が疑われる脳梗塞であり、潜在性脳梗塞の一亜型である。その重要な背景因子として、無症候性の心房細動が注目されている。自覚症状に乏しいため通常の心電図では検出困難であり、長時間心電図モニターや植込み型デバイスによる持続的評価が診断率向上に寄与する。さらにAI心電計の導入により、発作未出現時でも将来的な心房細動リスクの推定が可能となり、早期診断への応用が期待される。治療面では、心房細動が確認された場合は抗凝固療法が再発予防に有効である一方、未検出例では抗血小板療法が基本となる。したがって、原因検索の精度向上が予後改善の鍵となる。

本講演では、脳梗塞で脳卒中ケアユニットに入院した心房細動の既往のない症例に対して入院時にAI心電計を施行し4群に分類した。さらに入院中のモニターで2週間観察し、その後2週間長時間心電図モニターで追加観察して心房細動の検知とAI心電計の予測との関連性の有無について調べ、今後の診療においてAI心電図と長時間心電図モニターの併用でESUSの原因として無症候性心房細動を早期診断できるかを検討した。